

まちの話題



松館しぼり大根収穫

10月28日に、八幡平松館地区で、八幡平小学校の児童による松館しぼり大根の収穫が行われました。

松館しぼり大根は、八幡平松館地区で100年以上前から栽培されており、平成30年に地理的表示（GI）の登録を受けています。

児童らは、7月に自分たちで種を植えたしぼり大根を土から抜きあげ「大きい」と喜んだり、葉の部分をかじって辛さを確かめたりするなど、しぼり大根の収穫に夢中でした。

松館しぼり大根を栽培している戸館忠さんは「今年は例年より少し小ぶりだが、辛さは抜群である」と話していました。



警防技術練成会

10月30日に、市役所駐車場の除雪センター前で、警防技術練成会が開かれました。

消防訓練大会が2年続けて中止になったことを踏まえ、審査や指導をする署員の技術の低下防止や若手署員の訓練礼式の再確認、消防操法の習得を目的に行われ、若手署員が小型ポンプ操法とポンプ

車操法の2種類を行いました。審査員役に中堅署員が配置され、放水ホースの連結方法や、消火活動のスピードなどを確認しました。

鹿角広域行政組合消防署警防班の柳沢司令補は「声掛けや動作の流れなどを確認し、今後のチームワークの向上や現場での活動につなげたい」と話しました。



鹿魂祭2021

11月13日、14日の2日間、道の駅かづのあんとらあで、鹿魂祭2021が開催され、多くの観客で賑わいました。

このイベントは、伝統・遺産などの継承される文化や、歴史的価値のある資産を観光資源として活用するヘリテージツーリズムの一環として開催され、市内で伝承される民俗芸能6団体がイベントに参加しました。

訪れた観光客は、きりたんぼなどのブースで鹿角の味を楽しみながら、次々と行われる民俗芸能に魅了されています。



ネギ収穫祭

11月13日に、農事組合法人末広ファームで、ネギ収穫祭が行われました。

イベントは、大欠のネギとして親しまれている、十和田末広地区のネギの収穫が最盛期を迎えたことを受け、栽培している農事組合法人末広ファームが開催したものです。

訪れた方々は30キログラム用の大きな米袋を片手に、ネギの詰め放題を楽しみました。現在旬を迎えた品種は、12月15日まで収穫が続く見通しです。



鹿角市芸術文化章表彰式

11月13日に、交流プラザで、鹿角市芸術文化章表彰式が行われました。

芸術文化章は、鹿角民謡保存会の運営に尽力し、三味線の指導者として後継者育成に力を入れてこられた長谷川均氏と、新舞踊舞華やさくらこども教室を主宰し、伝統文化の継承や後継者育成に尽力された工藤トモ子氏の2人がそれぞれ受賞しました。



医療職を志す中高生のためのシンポジウム

11月7日に、交流センターで、岩手医科大学鹿角地域医療多職種連携推進学講座として「医療の魅力 医療のプロフェッショナルから学ぼう」が行われました。

講座では医師や薬剤師、保健師などがパネリストとして、将来、医療職を目指す中高生約30人に対し、体験談やアドバイスなどを話しました。

講座の後には、パネリストのほか、診療放射線技師や介護福祉士などがそれぞれの職種に分かれて、生徒と意見交換や質疑応答を行う機会を持ったことで、医療職の魅力と重要性について理解が深まりました。



青少年を育てる市民のつどい・PTA活動を考える会

11月13日に、エスポワールかづのので、青少年を育てる市民のつどいとPTA活動を考える会が合同開催され、関係者らおよそ100人が参加しました。

少年の主張では、中学生3人が発表し、来場者の心を打ちました。

後半は、「子どもや親と向き合い、上手に話を聞くスキルを身につけよう・改」と題した講演が行われ、講師の臨床心理士の秋山邦久氏は、現代の子どもと大人の違いを説明した上で、子どもと上手にかかわるコツを伝えていました。

